

エリア回遊性向上に向けたスマートサービス、情報発信の実証・分析事業(豊洲スマートシティ連絡会)

■都市課題

- ・エリア全体の回遊性の向上
- ・データを活用した賑わい創出

■解決方策

- ①店舗のリアルタイム情報発信
- ②デジタル観光マップ&スポットラリー
- ③エリアサイネージによる情報発信
- ④データに基づくまちの回遊分析

■KPI

- 実証KPI
- ・スマートシティポータルサイトへのアクセス数の増加
- ・参加者の平均移動距離の増加

■実証実験の概要・目的

情報端末(スマートフォン、デジタルサイネージ等)を活用し、都市における回遊性の向上、混雑の緩和、利便性向上等を目指したスマートサービスの構築に向けた実証

■実証実験の内容

①店舗のリアルタイム情報発信

店舗の満空情報などのリアルタイム情報をデジタルサイネージ及びポータルサイトなどから提供

②デジタル観光マップ&スポットラリー

「With/Afterコロナ」での周遊促進を目指し、豊洲における魅力的なスポットを紹介するデジタル観光マップ、スタンプラリーを実証

③エリアサイネージによる情報発信

エリアポイントにサイネージを設置し、スマートサービスやエリア情報を発信

④データに基づくエリア回遊分析

上記実証及びイベントや新型コロナウイルス感染症等の影響でエリア回遊状況や混雑度合がどのように変化をしたのかを分析



■実証実験で得られた成果・知見

①まちのイベントと共にサービス進行。

スマートサービスの提供機会向上に向けて、まちイベントの活用が重要

②デジタル観光マップ&スポットラリーの活用可能性

コロナ下で参加数が限定的であったものの、地域の魅力発信としてのツールとして活用可能である。

③エリアサイネージによる情報発信の有効性

実装に向けた採算性について要検討

④パケットセンサーによる回遊性の可視化可能

施設による滞流変化や新型コロナウイルス感染症における外出動向等の豊洲の移動実態の可視化が可能であり、スマートサービスの施策検討へ利用できる。一方で本実証ではコロナ下での影響が大きく、各サービスの影響は限定的な部分があった。

⑤豊洲エリアでの飲食関心が高い

アクセスログ、サイネージのQRの読込の回数が飲食に関わるものが多く、豊洲での飲食への関心が高いことが示唆された。

■今後の予定

- ・産学連携による豊洲のデジタル観光マップのアップデート
- ・エリア情報を集約する基盤の構築や実装に向けた検討
- ・継続的なデータの収集に向けたマネタイズ方法検討
- ・分野間連携によるスマートサービスの実装化